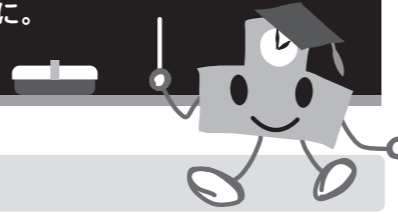


小学校の事例 北区 北九条小学校

30年以上続く花植え活動。 牛乳パックを利用して苗づくり。

アットホームな校風を生かし学年の垣根を越えて活動。
自然とふれあう機会として花植えを取り入れ、
植物に親しみながら、地球環境について考えるように。

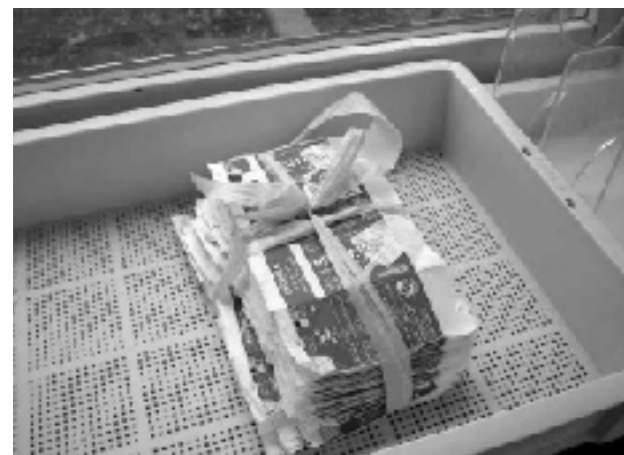


内容 PTAとともに 地域の花壇づくり

本校では、約30年前から児童とPTAと一緒に花を植える活動を継続して行っている。地理的に市の中心部に近く、植物や生物などの自然とふれあう場所が少ないということで、この取組が始まった。また、学年の枠を越えて、アットホームな雰囲気であることも、取組が長く続いている要因となっている。

花は歩道に面する校地内の花壇に、学年ごとに担当場所を分けて植えている。苗は札幌市から譲り受けたものの他に、牛乳パックを利用して、購入した種から一人一人株の苗を全校で育てたものがある。また、教職員も温室で苗づくりを行っている。

植えた花の水やりは、1～6年生で構成されるたて割りグループを利用して、全児童が当番制で行っている。毎週、月・水・金の「おはようタイム(朝8:30～8:40)」の中で2週間に1度、「花の輪活動」の時間を設けている。こういった「花の輪活動」に関する一年間の計画は花の輪委員会(4～6年生)が立てており、児童が主体の取組となっている。しかし、天候によって進まなかったり、植える前にマス花壇のごみ拾いや土の掘り起こしをしなければならなかったりするため、教職員やPTAの協力が必要な取組でもある。



100枚単位でまとめられた牛乳パック



学校敷地内の花壇

効果 地域環境や自然について考える機会に

花を大切にすることが多く、学年の異なるたて割りのグループの活動をととして、他者を思いやる心の優しさを育てている。全校で図工の時間に花の絵を描いているが、自分たちで育てているため、特別な思いや見方が加わるようだ。植物とふれあう機会が限られている学校だが、この工夫した取組が、植物に親しみ、地域環境や自然について考える機会となっている。



歩道側の校地内花壇



校舎前の外路花壇

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

花に対する愛着が深まっていくために、子ども一人一人に花が渡るよう、児童数分の花を用意しています。PTAからの協力を得ることも含め、継続してできる取組にするための計画を立てることが必要です。“春に植えて終わり”にならないよう、活動の途中に図工で絵を描いたり、種取りをしたりなど、取組に変化が生まれるように工夫しています。